

道路パトロールカー



阪神高速

大和川線 シールドマシン



阪神高速

大和川線 開削トンネル



阪神高速

阪神高速大和川線



阪神高速

道路パトロールカー



車両名:トヨタ ランドクルーザーなど 長さ:510cm
乗車定員:5名 幅:197cm
車両総重量:3,105kg 総排気量:4.60L

※車種によって規格は異なります。

ここがこだわり 黄色い道路パトロールカーは、阪神高速道路上で緊急時の対応や事故等の処理などを行い、道路の安全を守っています。また、車内には各種工具を始め、高速道路上に迷い込んだ動物を確保するための小動物捕獲器、道路の損傷を発見した際に緊急的に応急対応を行うためのYKバックや火災による煙、一酸化炭素等の危険から作業者を保護するフード式マスク・Sキャップなど60種類以上の機器を搭載しています。

大和川線 シールドマシン



直径:φ12.47m (キリン身長2倍以上)
重さ:約2000t (自家用車2,000台と同じ)
長さ:約23m (少年野球の塁間と同じ)
掘削する 約50万m³
土の量: (50mプール約200杯分)
進む力:約14,000t (ジャンボジェット92機と同じ)

ここがこだわり シールド工法とは、『シールド』と呼ばれる鋼製の筒を地中に押し込みながら、地中の土を変形させないように土を掘り込み、『セグメント』と呼ぶ鋼製やコンクリート製の材料でトンネルを作っていく工法です。シールドマシンの中にはたくさんの機械があり、まるで工場のようになっています。軟らかい土の中でも掘り進むことができるため、最近の地下鉄、道路(主に都市内)、共同溝、下水道、地下水路などのトンネル工事ではシールドトンネルが多く採用されています。

大和川線 開削トンネル

所在地:堺市堺区松屋大和川通～遠里小野町
深さ:地上から約14m (遠里小野町付近は4階建ての家と同じ)
高さ:6.5m(2階建ての家と同じ)
幅:約24m(遠里小野町付近)
材料:コンクリート、鉄筋(鉄の棒)など



ここがこだわり 「開削トンネル工法」とは、地上から土留め(鉄の柱)とそれを支える支保工(鉄のつっぱり棒)をつくりながら地面を掘り下げ、その中に床から天井という順番でトンネルをつくった後、トンネルの上を土でフタをする工法です。この工法は比較的浅い場所にトンネルをつくる場合にお金が安くすむこと、多くの条件に対応可能であることなどから、都市部に作られるトンネルにおいて一般的に用いられる工法です。

阪神高速大和川線

名称:大阪府道高速大和川線
所在地:堺市堺区築港八幡町～松原市三宅中
延長:約9.7km
構造:ほとんどがトンネル構造
完成予定:平成26年度末(一部平成24年度末)
キャッチコピー:まち、川、緑とともに
阪神高速大和川線



ここがこだわり 大阪の高速道路網は、阪神高速1号環状線を中心とした構成となっているため、交通が大阪中心部に集中し、慢性的な渋滞を引き起こしています。また、堺及び松原地域においては、東西道路の整備が不十分のため、既存の幹線道路の渋滞が著しく、沿道環境への影響が懸念されています。そこで、自動車交通の流れを変え、慢性的な渋滞や環境の悪化を抜本的に改善するために計画されたのが大阪都市再生環状道路です。大和川線はその一部を構成する路線です。